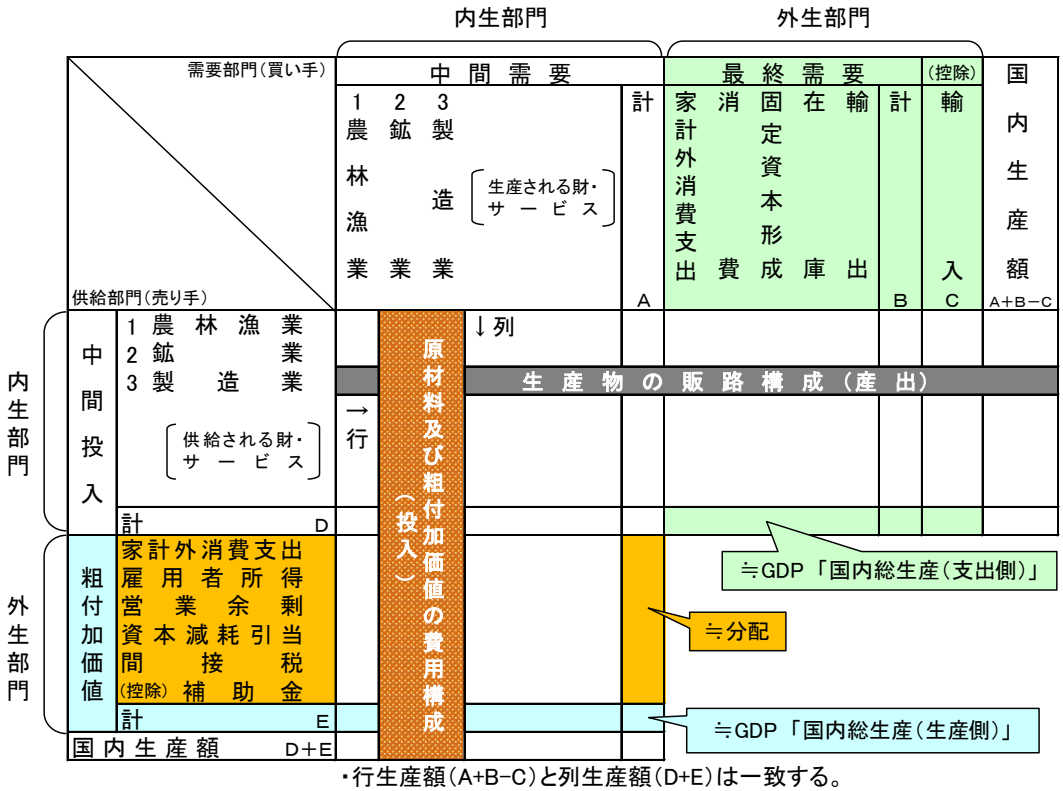
【参考1】

産 業 連 関 表 の 見 方

－我が国の財とサービスの流れがわかる産業連関表－

第1図　産業連関表の構造



・行生産額（A+B−C）と列生産額（D+E）は一致する。
・粗付加価値の合計と最終需要－輸入の合計は一致する。

産業連関表は、横の行と縦の列による組み合わせによって表示され、縦（列）と横（行）がバランスするように作られている。横にみると生産物の販路構成（産出）がわかり、縦にみると生産物の生産に必要な原材料及び付加価値等の費用構成（投入）がわかるようになっている（第1図参照）。

国民経済を構成する各産業部門は、相互に網の目のように結びつき合いながら生産活動を行い、最終需要に対して必要な財・サービスの供給を行っている。ある1つの産業部門は、他の産業部門から原材料、燃料等を購入（投入）し、これを基に（労働や資本を加えて）財・サービスを生産し、その財・サービスをさらに別の産業部門における生産のための原材料等として販売（産出）している。このような購入→生産→販売という連鎖を通じて徐々に加工度の高い商品が生産され、最終的には、家計、企業、政府、輸出等の最終需要部門に完成品（国内ではそれ以上加工されないもの）が供給されている。